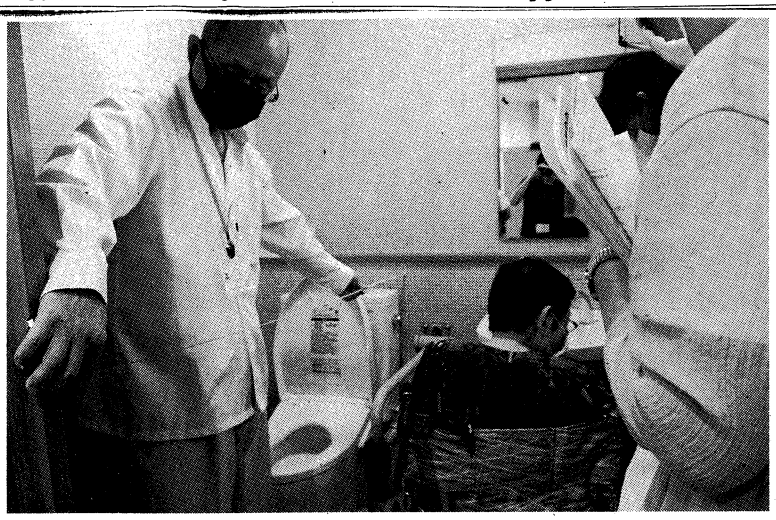
バリアフリー調べて支援

旅サポ　障がいがあっても安心



バリアフリー調査で、車椅子利用者のトイレの整備状況を確認する旅サポメンバー＝市内中央町のKEN'S CAFE

柏崎ユニバーサルツーリズムセンター（NPO法人・地域活動サポートセンター柏崎内）が県のバリアフリーマップサイト掲載に向け、20日から活動を開始した。昨年発足した「旅サポーター」を中心に、店舗のバリアフリー度を調べ、障がい者に情報提供する。この日は活動の目的を共有し、早速会場になった市内中央町のKEN'S CAFEでトイレの整備の様子などを確認した。

県のバリアフリーガイドマップは2001年からあまり更新されておらず、市内の飲食店の場合、これまでただ1軒の店しか記載されてなく、また長年更新もされていなかった。障がい者から市内を訪れてほしいと旅サポーターが発足したものの、情報が乏しく、福祉事業の推進、観光の活性化のためにも、適切な情報提供をしたいと、調査活動が企画された。

実施に当たっては、県共同募金会の「にいがた・新テーマ型募金」から38万2千円の協力を得た。活動には、高齢者や障がい者の旅行などを支援するため、昨年発足した旅サポーター19人が当事者と一緒に取り組む。

この日は、ユニバーサルツーリズムセンターの押見敏昭コーディネーター（54）が「調査は店の批判、ダメ出しではない。情報の提供をし、選択肢はあくまでも利用者にある」などと説明。ピーク時間を外し、ランチの時間帯に4人1組（うち1人は当事者）で訪問するとした。

調査票は、障がい者専用の駐車スペース、自動ドアや段差、誘導ブロック、点字案内板、車椅子対応のトイレの有無。店内を見て回り、車椅子生活の安田、井貝詩子さん（78）は「最初からバリアフリーを考えて造られている。市内のいろいろな店の情報が分かると生活が楽しくなる」と話した。

旅サポーターの一人、新道の秋間史子さん（55）は「福祉活動の経験はないけれど、自分も楽しみながらやっていきたい。困っている人たちに少しでもお役に立てたらいい」。押見コーディネーターは「市内の店がテークアウトなどで盛り上がっている。適切な情報の提供で、バリアがあっても、旅サポーターのケアにより、安心して利用できることを知ってもらいたい」と調査協力店、ボランティアの参加を求めた。ユニバーサルツーリズムセンター（電話47・7229）へ。

バーチャルで社会科見学

柏崎公民館が小学生対象

柏崎公民館が子ども向けコースとして、7月25日にバーチャルでニューヨーク社会科見学ツアーを開く。午前9時から小学1～3年生コース、11時から4～6年生コースで各1時間、定員は20人。申し込みは今月28日まで。

見学ツアーは、ニューヨークに住んでいる講師からインターネットを使って動画や写真を見ながら有名な場所を楽しくガイドしてもらう。講師は新潟県出身でニューヨーク在住のダンスパフォーマー・中沢利彦さん。

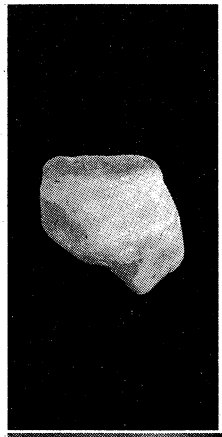
受講対象は市内在住の小学生で個人のパソコン、タブレット、スマートフォンにWeb会議アプリ「Zoom」をインストールの上、自宅から参加する。受講料は300円（申し込み受け付け後、納入通知書を送付）。申し込みは電子メールで氏名（ふりがな）、性別、郵便番号、住所、学校名、学年、保護者氏名、電話番号を明記し、s-pkashiwへ。市ホ申し込みが

みんな元素でできている④

海や山の元

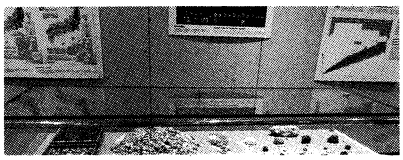
前回まで、私たち人類が生活の中で利用してきた元素についてご紹介しましたね。

現在、元素は118種類が見つかっており、その中には人工的に作られた元素もありますが、89種類は地球上にある天然物から発見された元素です。今回は、自然の中にある元素を見てみましょう。



柏崎の海岸を歩いていると貝殻や海藻、流木などさまざまなものが見られます。皆さんは、写真のような半透明で縞（しま）模様のある石を見つけたことがありませんか。これは、瑪瑙（めのう）です。瑪瑙は、細かい石英の結晶が集まった鉱物です。

地球表面近くにある元素で最も多いのが酸素（O）、次に多いのがケイ素（Si）です。この二つが結びついた「二酸化ケイ素（SiO_2）」からできた鉱物が石英です。本来、無色透明ですが、ちょっとした成分



線の影響で赤、紫、ほかにまな色を

みに、「瑪瑙の